

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住吉区
学 校 名	大領小学校
学校長名	平田 陽子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大領小学校では、第6学年 93名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は、大阪市より0.4ポイント、全国より0.6ポイント低い結果となりました。また平均無回答率は大阪市より1.4ポイント、全国より1.9ポイント低い結果となりました。

算数科の平均正答率は、大阪市より0.3ポイント、全国より0.2ポイント高い結果となりました。また平均無回答率は大阪市より0.6ポイント、全国より0.9ポイント低い結果となりました。

理科の平均正答率は、大阪市より1.8ポイント高く、全国同等の結果となりました。また平均無回答率は大阪市より1.3ポイント、全国より1.1ポイント低い結果となりました。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語では大阪市・全国平均を下回る結果となりました。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する」事項においては大阪市・全国平均を上回りました。これは、国語の学習で、既習漢字と文や文章の中で使おうとする習慣を身に着け正しく使うようにしたからです。

〔算数〕

全領域で大阪市・全国平均を上回る結果となりました。特に「変化と関係」では、事象の変化を捉えて問題解決に生かす資質・能力の中核となる関数の学習がしっかりと身に着いているからだと考えます。

〔理科〕

理科ではほぼ大阪市・全国平均を上回る結果となりました。しかし、「粒子を柱とする領域」だけ大阪市・全国平均を下回りました。これは、水の蒸発について、温度によって水の状態

質問調査より

〔基本的生活習慣〕

○「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」に対し肯定的な回答を選んだ割合は、大阪市・全国平均と比べて低い結果となりました。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」の回答に肯定的に回答している児童の割合は大阪市・全国平均を上回る結果となりました。

〔道徳的価値観〕

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の回答に対して最も肯定的に答える児童が大阪市・全国平均を下回っているます。昨年度より割合は上がっています。

今後の取組(アクションプラン)

○本校では家庭科の学習で学んだ知識及び技能をもとに、自分の家庭生活・学校生活に生かそうと問題意識を持ち、課題解決を図り、家庭生活の改善に役立てていく子どもの姿を目指してきました。その結果、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問に対して肯定的に答える児童が大阪市・全国平均を上回っています。

○児童の「いじめ」に対しての意識については改善傾向にあります。今後も道徳教育や人権教育、学習活動全般を通じて、児童の自尊感情を高め、自他ともに尊重しあいながら、心を豊かにする指導を継続して行っていきます。
